



小暮、梅雨空に苦しむ

大会名：2016 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 富士スピードウェイ
距離：4,563km × 55 周 (251.804km)
予選：7月16日(土) 雨のち曇り・観衆:12,300人(主催者発表)
決勝：7月17日(日) 曇り・観衆:22,800人(主催者発表)

全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第3戦が、7月16日(土)～17日(日)、静岡県富士スピードウェイで開催された。DRAGO CORSE は、小暮卓史を起用して本レースに参戦した。

●7月15日(金)

■専有走行：1分37秒411

梅雨空の富士スピードウェイでは午前中強い雨が降ったが昼には上がり、路面は乾いていた。しかし専有走行が始まる午後3時20分を前に再び雨が落ち始め、5分遅れでセッションが始まる頃には路面はウェットコンディションとなった。小暮は、ドライセッティングのままレインタイヤを装着してコースイン、走行を行った。21周を走った結果、ベストタイムは1分37秒411。出走19台中5番手、HONDA 勢2番手につけてセッションを終えた。

●7月16日(土)

■フリー走行1回目：1分47秒847 13位

土曜日、午前9時15分からフリー走行が1時間にわたって行われた。雨は止みかかっていたが、わずかながら断続的に続いており、路面は微妙に濡れたままの状態で、走行する車両は水しぶきを立てる。小暮はレインタイヤのグリップ不足に悩み、タイムは出走19台中13番手に留まった。

■公式予選：1分46秒234 19位

ノックアウト方式の公式予選は予定通り午後2時45分から始まった。Q1が始まる時点で雨は止んでいたが路面には水が残り、WET宣言が出された。気温は低めの21度とレインタイヤを発動させるには難しい条件である。

走行を開始した小暮は、ウェット路面を想定したセッティングをマシンに施してコースインしたが、終始グリップ不足に苦しみ、タイムが上がらない。チームもなんとかマシンの状態を改善しようとセッティングを進めるが、思い通りの状況へ持ち込めないまま20分のセッションは終わった。小暮は11周を走り最終ラップに自己ベストを更新したがタイムは1分46秒234に留まり、出走19台中19位でQ2進出はならなかった。

●7月17日(日)

■フリー走行2回目：1分35秒309 8位

雨は午前8時45分から30分間のフリー走行前には止んだが、コースはまだ濡れており、水の多い箇所では水しぶきがあがるコンディション。小暮はドライコンディションになる決勝レースを見据えてスリックタイヤで走行した。ドライセッティングのマシンはグリップを取り戻し、小暮は出走19台中8番手となる1分35秒309を記録した。

■決勝レース：15位 (22分26秒512 8周 ベストラップ 2分27秒543)

フリー走行後、コースは乾いていき、決勝レース前には完全にドライコンディションとなった。小暮は決勝レースに先だって行われたウォームアップ走行で、出走18台中6番手にあたる1分26秒644を記録した。

午後2時、フォーメーションラップが始まり、出走を断念した1台を除く18台の車両がスターティンググリッドについて決勝のスタートが切られた。チームは小暮が最後尾からスタートすることを考慮し、小暮のマシンにレスダウンフォース方向のセッティングを施したうえで、早めのピットストップ戦略を決めた。

小暮はスタート後の混乱をすり抜けて1周の間に順位を上げ14番手につけた。しかしブレ

ーキングでフロントタイヤにフラットスポットを作ってしまった、その後の闘いは苦しくなった。チームは燃料を満タンにして走りきれる距離を45周と見積もり、10周を走ってフィニッシュまで45周となったところで小暮をピットインさせる戦略だったので、小暮はフラットスポットに起因するバイブレーションに耐えながらレースを続け、10周を走った段階でピットインした。本来は燃料を満タンにするだけの予定だったが、フロントタイヤのみ交換を行った。小暮は見かけ上の順位を最下位に落としてコースに復帰した。

小暮を追ってピットイン義務を消化するチームが出始めた15周目、コース上で停止した車両を回収するためセーフティカーがコースインした。ここで残りのチームが一斉にピットインを始めた。その結果、すでにピットインを終えていた小暮の順位は繰り上がっていき、19周終了時点でレースが再開したとき、小暮の順位は11番手となっていた。

ところが再スタート直後の第1コーナーで小暮は再びブレーキングで交換したばかりのタイヤにフラットスポットを作ってしまった。小暮は20周を走り終えた時点で予定外のピットインをせざるをえず、レースに復帰した段階では最後尾の16番手へ順位を落とした。結局小暮はその後自力で前走車をとらえることができないままフィニッシュを迎えた。脱落したマシン、ペナルティを受けたマシンが生じたため順位は繰り上がり12位であった。

第2戦終了時点で小暮のポイントランキングは11番手、チームのポイントランキングは8番手となった。シリーズ第4戦は、8月20日～21日、栃木県ツインリンクもてぎで開催される。

■小暮卓史選手コメント

レインのときはクルマが決まらなくてどうしようかと思っていたんですが、ドライコンディションになったらクルマの状況が好転しました。予選が良くなかった分、決勝はいいレースにしたいと思ってスタートで頑張りました。11番手まで上がったのは良かったのですが、タイヤにフラットスポットを作ってしまった、それ以上は無理でした。給油ピットインでタイヤを交換した後、セーフティカーが入ったのでチャンスだったんですが、またタイヤにフラットスポットを作ってしまった、予定外のピットインをしなくてはなりません。あれがなかったら、もしかしたらポイントを取れたかもしれないと思うと、もったいないことをしました。残念な週末でした。このところ、あまり流れが良くないので次のレースで流れを良い方向へ持って行けるように頑張ります。

■道上龍監督コメント

ウェットコンディションに対するセッティングがうまくいかず、予選で最後尾になってしまいました。ドライコンディションでは本来のペースで走れるようになりました。最後尾からのスタートだったので、早めのピットインは最初から決めていました。小暮はスタート直後にタイヤを壊して振動が出ているので予定よりもさらに早くピットインしたいと無線で言ってきましたが、10周以降でないと燃料が足りなくなってしまうのでなんとか10周まで我慢しろと指示しました。そこでピットインしたらその後セーフティカーが入って、うちとしてはラッキーで、順位を5つ上げました。でもリスタート直後の1コーナーで小暮がまたタイヤをロックさせてしまって、ペースが上がらなくなっていました。早くタイヤを交換しないとクルマの方が壊れてしまうくらいの振動だったので、予定外のピットインをしなければならず残念です。苦しい中、少しでも順位を上げようといういろいろトライした結果、結果は残らなかったんですが今後に向けてはいろいろわかったこともあったので次にはつながるレースだったかなとは思っています。